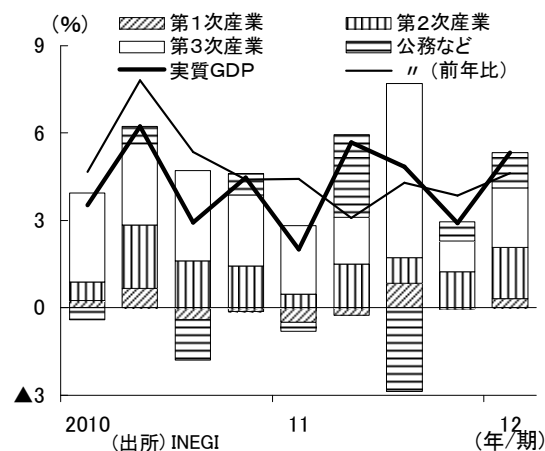




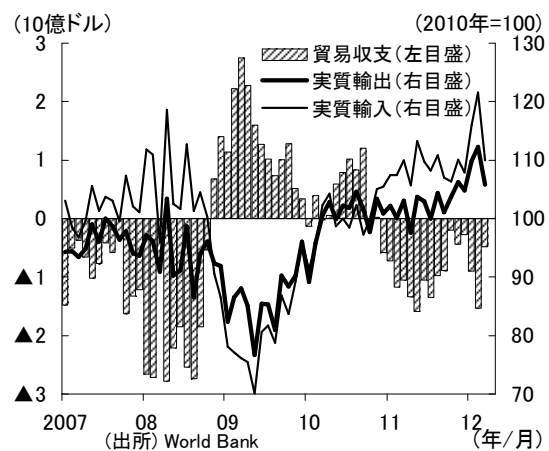
1～3月期メキシコ高成長 ～ 消費を中心に内需が成長牽引 ～

- (1) メキシコは本年1～3月前年比4.6%成長(図表1)。リーマン・ショックの反動で嵩上げされた2010年7～9月期同5.3%以来の高成長。季調済では昨年10～12月期の前期比年率2.9%から5.3%へ急拡大に。産業別に前期と寄与度を対比すると、牽引役は1.1%から2.0%に加速した第三次産業。次いで、アメリカ向け自動車輸出の盛り上がりで寄与度が1.2%から1.8%に増加した第二次産業。さらに第一次産業もラニーニャ影響が後退して0.0%から0.3%へ増加。すべての産業で成長加速。
- (2) 一方、需要サイドの計数は未公表ながら貿易動向をみる限り、自動車輸出は増加したものの、外需はマイナスの模様。世銀データによると実質輸出を上回って実質輸入が増加した結果、実質貿易赤字は季調済ベースで拡大(図表2)。実質輸入の増加は内需の盛り上がりを示唆。なお、2月の計数は閏年要因による過大推計の可能性は否定出来ないものの、2月を除いても赤字拡大。
- (3) 業種別GDPに季節調整を施し、改めて分野別にみると最大の牽引役は商業(図表3)。寄与度を前期と対比すれば、0.1%から2.0%と1～3月期の前期比年率5.3%成長の4割に。次いで0.2%から1.2%へ増加した輸送用機械製造業。さらに0.2%から0.6%に拡大した運輸・倉庫業。
- (4) 商業や運輸・倉庫業の好調は自動車輸出のみならず、国内消費の拡大も原動力。そこで、雇用環境をみると、月々の変動は大きいものの、失業率は昨年半ば以降5%台半ばから5%前後の水準へ低下(図表4)。賃金も労働時間増加に伴う所定外賃金の増加を主因に増勢回復の模様。所得・雇用環境の改善を映じて消費者マインドに明るさが拡がり、小売売上高は趨勢的増勢を持続。自動車生産・輸出では4月に弱含む兆しがみられるものの、消費を中心に底堅い内需に照らせば、本年の同国経済は4%前後の着実な成長持続の見通し。

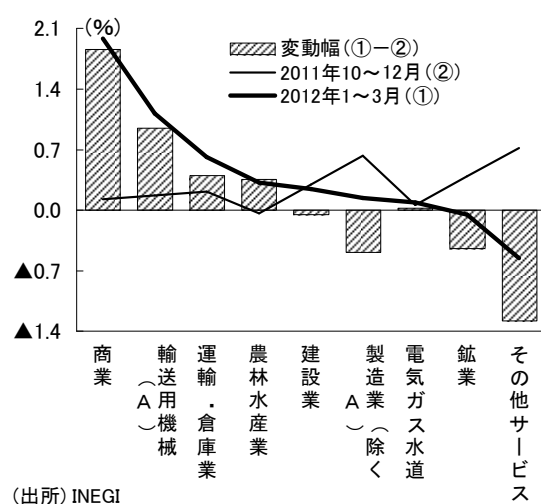
(図表1)メキシコの実質成長率(季調済前期比年率)



(図表2)実質輸出入と実質貿易収支



(図表3)産業別実質成長率寄与度(季調済年率)



(図表4)失業率と小売売上高(季調済)

